

＜ もくじ ＞	
1. 第7回 研究会合同イベント：シンポジウム開催のお知らせ	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 事務局からのお願い	6

1. 第7回 研究会合同イベント「人生の第三期に広がる世界～新しいキャリアへの挑戦～」のお知らせ

「人間五十年」とか「人生七十年」といわれたのは昔のこと。今や「人生100年」も稀ではなくなりました。かつて定年後は余生とよばれたものですが、今日では教育期や就業期の後の人生がしだいに長くなってきています。「余りの生」というには長すぎる人生の第三期には、これまでの生き方にとらわれることなく、新しい道に進むことができます。学ぶ、働く、社会への貢献など、あなたも新しい可能性に挑戦してみませんか。

- (1) 日 時：2023年3月25日（土） 14：00～16：00
- (2) 開催方法：登壇者は会場で講演・討論、一般参加者はZoomによるオンライン開催
- (3) 参加費：1,000円（Peatix または銀行・郵便局からの振り込み：詳細はチラシ参照）
- (4) 申込方法：Peatix、またはメールで申し込み（3月22日までお願いします）
- (5) 内容

■ 基調講演

タイトル：自律する個人が生き活かし合う社会を創る -ソーシャルビジネスの現場から-

- ・ 治田友香（関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 社長）

■ パネルディスカッション

司会/モデレーター

- ・ 袖井孝子（シニア社会学会会長）

パネリスト

- ・ 池口武志（一般社団法人 定年後研究所 理事・所長）
- ・ 小野晶子（独立行政法人 労働政策研究・研修機構 主任研究員）
- ・ 本田恭助（一般社団法人 シニア社会学会 運営委員）
- ・ 治田友香（関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 社長）

※ 研究会合同イベントは、多くの研究会の交流を図るために各年度の3月に研究会の1つが持ち回りで主催主体となり毎年開催してきました。現在、2023年度に新研究会の立ち上げを準備しているグループ（代表：本田恭助）が、時代の変化に応じた当学会の新しい方向性を模索するために企画するものです。多くの方のご参加をお待ちしております。内容の詳細と申し込み方法については添付のチラシをご覧ください。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第148回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年2月22日（水） 18：00～20：00
 - 2) 報告者：宇野公子（アジア経済研究所研究員）
 - 3) テーマ：「貧困とジェンダー(仮)」
 - 4) Zoom でいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで（090-4436-6853）

(2) 第30回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年2月25日（土） 13：30～16：30
- 2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

劇団 「^{びしょうざ}B笑座」第16回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(3) 第41回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年3月14日（火） 17：30～19：30
- 2) Zoomにて開催
- 3) テーマ：読書会『オッサンの壁（講談社現代新書）2022年4月』著者：佐藤千矢子
全国紙初の女性政治部長が克明に記す「男社会」のリアル。日本社会への処方箋。
- 4) ファシリテーター：岡田慶子

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。
皆さまのご参加をお待ちしております。気軽にお問い合わせください。

(4) 第40回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年3月15日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェアB1 プロジェクトR011
（東京都千代田区神田錦町3-21）
- 3) 概 要：俱進会助成事業 報告書作成準備

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(5) 第85回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年3月23日（木） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と意見交換くそのー2> — 「私たちが次世代に残したいメッセージを探り、提起する」
- 4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。
（なお、2月は都合により休会とさせていただきます。）

3. 研究会からの概要報告

(1) 第38回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年1月18日（木） 15：00～17：00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：俱進会調査研究 報告書とりまとめに向けて
 - ・報告書に向けて
 - 全体の文章のトーンを統一する（担当 八巻）
 - 用語の統一（スマートフォン、ガラケー、パソコン 等）
 - インタビューの発言中の言葉はそのまま
 - 報告書付録として20名分のインタビューをEXCELでまとめたものを提出する。
 - ・インタビューデータの整理・分析のレビュー
 - 0-1 本人プロフィール（担当 森嵩）
 - 健康状態についても加えた
 - 3-2 スマートフォン保有機種、使い始めた時期・きっかけ（担当 安田育夫）
 - 文体を報告書風にする
 - 3-3 スマートフォンで利用している機能（担当 齋田）
 - 20名の利用機能からユーザー分類や特徴抽出を実施
 - 報告書に入れる図表について議論

(2) 第65回「災害と地域社会」研究会概要報告

- 1) 日 時：2023年1月22日（日） 18：00～20：00
- 2) 開催方法：Zoomによるオンライン開催
- 3) 報告者：青山陽子（成蹊大学ほか非常勤講師、当学会会員）
米田衆介（明神下診療所院長）
- 4) テーマ： 地域社会と防災：支援の手が届きやすくするための地域ネットワークづくりと
災害時の障害者支援について
- 5) 概要

青山陽子さんは精神科診療所の米田衆介所長とともに、障害者作業所をフィールドとして発達障害の患者さんたちの社会復帰に向けた地域福祉活動に参加しています。

報告ではまず青山さんから、1980年代からのノーマライゼーションの啓発活動とともに、精神障害者の社会復帰施策の法的整備が進められていった背景について説明がありました。そして施設の建設によって設置主体と地域住民との間に摩擦が生じる事態とその解決のための社会的メカニズムについて説明されました。それを踏まえて台東区内の長屋の一戸を取得し、新しく建築するのではなくリフォームして活用することで住民の方の抵抗感をやわらげるなど気を使ったということでした。また皮革産業や小物製造・卸業の集積地であるといった台東区の地場産業の特徴を活かして利用者のモノづくりを支援する「障害者就労継続支援B型事業所」「3B実用芸術研究所」を設立したとのことでした。

その後、米田衆介所長から、自閉症者を災害時において支援する際の注意点について、これまでの知見の蓄積に関する報告がありました。そして米田さんが明神下診療所を開院する経緯についての説明がありました。最初は重い自閉症児を診療していたところ、一般の人々の発達障害への関心の高まりによって、大人の発達障害を診るようになったこと、そうした流れからリハビリテーションの一環としてデイケアや社会復帰事業を展開することになったということでした。また「こだわり」が強い傾向を持つ「自閉スペクトラム症」の人の特徴を、①状況認知（何が起きているかを共有しにくい）、②対人関係（自分と周りの他者との関係の意味を理解しにくい）、③集団の中での自分の位置づけが独特である（「わたしたち」や「仲間」という意識を持ちにくい）といった3つの側面から詳しく解説されました。

参加者からは、精神疾患の差異（例えば自閉症と統合失調症）によって住民の反応に違いがあったのか、「医療トリアージ」の考え方を災害時の避難所運営における障害者支援に応用できないかといった意見がありました。障害の多様性のために災害現場での短時間での評価・判断は困難であることから、事前のアセスメントや災害用情報カードの準備、個人情報の配慮などが議論されました。また大槌町における津波被災者ケアの現場で、10年が経過しても癒されない一定の人々への配慮に対する対応についての質問とやりとりもありました。議論は余韻を残す中、機会を見てこのテーマを再度取り上げることを確認して散会しました。（長田、青山、米田 記）

(3) 第147回「社会保障」研究会 報告要旨

- 1) 日 時: 2023年1月25日(水) 18:00~22:10
- 2) 報告者: 石崎浩二(三菱UFJ信託銀行 エグゼクティブ・アドバイザー)
- 3) テーマ: 「銀行員が本音で語る。老後のお金の哲学」
- 4) 参加者: 18名

賃金が増えにくい日本の現役世代は資産形成に回す余裕がなく、金融資産の6割超は60歳以上が保有している。60代夫婦の金融資産の平均は2,427万円だが、3,000万円以上22%、貯蓄ゼロ19%となっており、高度成長期を支えた中間層が没落しつつある。政府は資産所得倍増計画を打ち出したものの、金融リテラシーが低い(OECD14カ国中12位)日本人は、資産形成の方法が分からず金融機関に頼りすぎる傾向がある。長寿により介護期間(男性8.9年・女性12.3年)も長くなる中、老々介護や単身世帯も増えており、漠然とした老後のお金の不安を抱く人は多い。

不安を煽るような不適切な販売に対しては、正しい金融知識を学び、医者治療方針を納得するまで質問するのと同じように理解するまで聞くことが大切である。お金を増やすなら非課税枠があり、長期・積立・分散投資に適しているNISAやiDeCoから始める。投資信託なら手数料が安いものを選ぶ、外貨預金より手数料の安い外貨MMFを選ぶ、がん保険は再発時にも支払われるものかを確認するのが望ましい。

退職金を全部投資商品にするのではなく、60歳なら60%、80歳なら80%は預貯金で保有し、余裕資金に限定して運用していく。高齢者にとっては増やすことよりも、資産の取り崩しの方が大切になる。年金収入だけになったら余命を計算して、毎年一定額を取り崩すようにして節約する。

注意したいのは加齢に伴う認知機能の低下である。長生きすれば誰もが認知症になる可能性があり悲観することはないものの、意思能力がある間に準備できることはやっておくことが望ましい。金融機関の口座を集約する、振込・ATMの限度額を設定する等の日常的なことに加え、死後のことについて家族と定期的に話し合いをしておくことも大切である。その際、財産の一覧表を作成しエンディングノートを書くなど、自分の意思を定期的に確認しながら死生観を養う人も多い。

信頼できる子供や介護士でも生きてきた世代が異なれば価値観も異なる。知恵のある高齢者はリスペクトされる時代から、老害と呼ばれる時代だからこそ、若い世代との対話も大切にして、相互理解を進め包摂した社会となることを期待している。(石崎浩二 記)

(4) 第84回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時: 2023年1月26日(木) 15:00~18:00
 - 2) 場 所: 早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
 - 3) テーマ: 発表と意見交換<その1>- 『シニア社会』に関する問題意識と課題について
- 今回のテーマは、濱口座長から2008年当時の「老若共同参画社会」研究会が作成した冊子『シニアから、52の提言』を読み直して、改めて「シニア及びシニア社会とは何か」を見直してみようという示唆がきっかけとなり、参加者全員が発表するという形式で行われました。

先ず碓正義さんから、シニア社会の定義について考えてみたこと。学会の設立趣意書を読み、シニア社会を「安心して齢をとることが出来る社会」と読めたこと。佐藤 敬さんは、「シニア社会」を「成熟社会」と解する根拠は何か。また現代社会はガポールが説く「成熟社会」すなわち「寛容な民主主義社会」と言えるであろうかと問題提起された。大下 勝巳さんは、シニア世代が抱える問題・課題を読み解き、課題を解決する道として浮上するのは、コミュニティの再生であると述べられた。本田 重道さんは、学会に入会して「シニア社会」ということに強い関心を持ったこと。薄井 滋さんは、「シニア社会学会のシニア」は、「知恵ある世代」と思うこと。安田 和紘さんは、提言再検討視点を列記され、留意する視点として、その後の時代変化を読み解く必要があること。島村 健次郎さんは、今回のテーマと取り組んだことにより、自分自身を振り返るいい機会を与えられたこと。等それぞれ参加者から発表があった。

濱口座長は、「成熟社会」という問題意識は社会構成内の多様化の様子を把握するツール概念として有効であろう。「自立と共生」というテーマがいままで以上に今後問題になる。その際コミュニティをどのような目線で受け取るかも問題になるだろう。そして「シニア社会学会」の存在価値は、「シニア化」は現実の問題として一層進んでいくので、「学会」という組織活動の活動領域が拡大していくので高まるだろうとコメントされた。(島村記)

(5) 第29回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2023年1月28日(土) 17:00~20:00
- 2) 場 所：荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋 201
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる劇団 「B笑座」第15回。
「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(6) 第40回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年2月6日 17:30~19:30
- 2) 報告者：中村昌子
- 3) タイトル：テーマ1「もしバナゲーム」を試した感想のシェア
テーマ2 東洋経済 ONLINE 連載中のドラ・トーザン氏の記事の感想
- 4) Zoom 開催

■「もしバナゲーム」「もしもあなたが半年の余命だとしたら、人生の最後にどうありたいか。」以下、36枚のカードの中から、それぞれが、ベスト5を選び説明。それぞれの価値観、人生観が興味深かった。是非、皆さんもご家族や身近な方とお試ください。

1~35のカード

・いい人生だったと思える・主治医を信頼する・尊厳が保たれる・痛みがない・お金の問題を整理しておく・大切な人とお別れをする・私が望む形で治療やケアをしてもらえる・祈る・穏やかな気持ちにさせてくれる看護師がいる・人生の最期を一人で過ごさない・家族の負担にならない・家族と一緒に過ごす・家で最期を迎える・家族や友人とやり残したことを片付ける・私の価値観や優先順位を知る代弁者がいる・親友が近くにいる・誰かの役に立つ・ユーモアを持ち続ける・意識がはっきりしている・機器に繋がれていない(人工呼吸器、人工栄養チューブ、点滴、心電図モニターなど)・呼吸が苦しくない・清潔さが維持される・不安がない・私を一人の人間として理解してくれる医者がある・あらかじめ葬儀の準備をしておく・死生観について話せる・自分の人生を振り返る・怖いと思うことについて話せる・家族が私の死を覚悟している・宗教家やチャプレンと会って話せる・神が共にいて平安である・人との温かいつながりがある・自分の身体がどう変わっていくかを知る・私の思いを聴いてくれる人がいる・自分が何を望むのか家族と確認することで口論を避ける

36のカード 項目にないことを加えられるワイルドカード(今回は、「自分らしく生きる」「不要

物の撤去」があがった。)

■フランスの事実婚、PACS 婚、フランス人が「寅さん」で学んだ日本の隠れた魅力、フランスの高齢者が「一人暮らし」を望む根本理由、などについて知識の共有、意見交換をした。
[ドラの視点の記事一覧 | 東洋経済オンライン | \(toyokeizai.net\)](#)

(中村昌子 記)

4. 事務局からのお知らせとお願い

< 会員情報変更時のご連絡のお願い >

コロナ禍中、各種ご連絡を e メールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・e メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。当面、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、e メール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

< 2023年3月 JAAS News の発行日 >

次回 JAAS News 第283号の発行日は、2023年3月15日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、3月8日（水）までに、学会宛の e メール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>